

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070001021		
法人名	社会福祉法人 初栄会		
事業所名	グループホーム ほがらか		
所在地	福岡県田川郡赤村大字内田2234-1 (電話) 0947-62-3707		
自己評価作成日	平成24年1月18日	評価結果確定日	平成24年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者主体の生活を実現していく為に、要望や訴えに対して速やかな対応を心がけています。職員間、家族と協力、連携し、利用者が安全かつ快適な生活を送られるように支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.fsw.or.jp/kohyo/top.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成24年2月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

特別養護老人ホームを母体として、ケアハウスや通所介護等の法人の事業所に併設された木造平屋立ての1ユニットの事業所である。ユニットの建材には木材が多く使われており、木の温もりが感じられる。共有空間は広めにとられており、ゆったりと暖かみのある家庭的な雰囲気がある。「その人らしさ」を大切にという理念のもと、地域のイベントに参加したり、行政からは「認知症」の相談を受けたり、法人と共に開催の夏祭りなど地域貢献を果たしており、地域とのつながりを大切にしながら個人のペースや意向を尊重した支援を実践している。また、職員の資格取得の推奨や教育体制の構築等職員が働きやすいように環境を整え、チームワークが良好で信頼関係も深く、利用者のケアに当たっている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回の職員会議の際は、理念の実践に向けての検討を行い、地域の行事参加や食堂、理美容室との関わり、地域とのつながりの大切さを理解し、地域と共にある事業所を目指している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。月に1度の職員会議の際に、利用者への言葉かけや個別ケア等日々の実践の中に理念が反映されるよう理念の実践と共有について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加、近隣の清掃活動、理美容室、スーパー、食堂等の利用を行っている。	自治会に加入し、地域の清掃や敬老会へ参加したり、文化祭などに作品出展している。事業所が開催する行事は、地域住民に案内している。近隣の保育園児の慰問や高校生の職場体験の受け入れなど積極的に地域との交流を図るよう努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族や地域の人、保健者からの相談、電話による問い合わせ等には介護保険制度、認知症についての助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況や行事、防災訓練等の告知を議題とし会議を行っている。委員からの意見を事業運営に反映している。	運営推進会議は2か月に1回開催している。委員にはサービス利用状況や評価への取り組み状況などを報告している。会議で情報を得た地域の行事に参加したり、事業所の行事案内の立て看板を早めに設置したり、災害時の消防署直通の防災無線を設置する等、委員から意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場が行う、事業所調査時の情報提供や各種申請時の窓口での関わり、保健福祉課と地域の認知症の方の対応についての相談援助を行っている。	日頃から介護保険制度等についての相談を行っている。また、市から地域の「認知症対応について」講演について依頼を受けたり、地域の住民に関する個別ケアについて気軽に相談を受ける等協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が引き起こす問題を勉強会で取り上げ、施錠や行動抑制、言葉による抑制を行わないようにしている。	玄関・居室は施錠していない。職員は利用者の外出傾向等を把握し、付き添いや見守りを行っている。管理者は日頃から職員に「拘束」に関して問題提起しながら介護にあたっている。利用者の外出に際しては、法人内の他事業所・役場・駅・タクシー会社等に協力を求める働きかけをしている。全職員は内部研修にて学ぶ機会が設けられている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や会議で高齢者虐待防止についての議題を取り上げ、通報義務や刑罰も含め説明をしている。また、職員同士が言葉や行動に対して注意し合える環境作りに努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度について会議で職員に情報提供を行っている。家族やその他の相談がある場合は、活用方法や窓口の連絡先を伝えている。	制度に関して、利用者・家族は契約時に説明している。全職員は内部研修を受講している。玄関先に成年後見制度のパンフレットを置いて情報提供をしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書を家族と一緒に読みながら契約を行っている。分かりやすい言葉、具体例を挙げながら説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対して、面会時にコミュニケーションを多く取り、日頃の状態や生活状況を伝えている。要望、意見があれば会議にて検討し、実践につなげている。	利用者及び家族等は運営推進会議に参加し、意見や思いを述べる機会はある。家族の面会時には利用者の状況を報告を行うと共に、家族からの意見や要望を聴くように声をかけている。利用者や家族の意見を行事内容など運営に反映している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議や勉強会にて職員の意見を聞く機会を設けている。行事や買い物、お菓子作り等、職員からの要望を事業に反映させている。	自己評価については、全職員が記入した内容を管理者が集約し作成している。管理者は職員会議で運営に対する意見や提案など充分に聞き、共に考える姿勢を大切に信頼関係を築いている。共有空間の掲示物を季節毎に貼りかえるなど職員の意見や気づきを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所管理者会議にて、給与体系や勤務条件、資格取得へのサポート等、法人全体で取り組めることを検討し、職員支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用については性別や年齢を問わず、面接時にやる気のある職員を採用している。	採用選考では、意欲を重視しており、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。定年後も希望に応じ再雇用も可能である。働きやすい職場を目指しており、職員の資格取得や教育体制の充実に関して職員が自己実現できるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や勉強会で人権学習を取り入れ、倫理観の向上や思いやりのある人間形成に向けて啓発している。	月1回、人権に関する内部研修が組み込まれており、思いやりのある人間形成に向けて、職員が学ぶ機会を設けている。テキスト・パンフレット・研修記録がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研究研修会への参加や発表の機会を作り、実践していることを伝える、また、他の事業所の良い点を持ち帰り、職員間で情報を共有している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入し、加入事業者間での情報交換や、地域の医療、介護事業の動向を話している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時に本人や家族の悩みや不安を聞き取り、事業所や職員としてできる事を伝えていく。入所直後は訪室回数を増やしたり、会話の機会を多くする等の対応を取っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りにより不安や悩みを取り上げ、職員間で対応方法や支援の具体策を考えいる。決定した段階で速やかに家族に伝えることを不安を軽減している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや関係事業所と介護職員が連携のもと、何を必要としているのかを検討し、提供の実施をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々が出来る事を見つけて、職員と一緒に生活していく関係を築いている。職員は感謝の気持ちを忘れないように心掛けている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や広報にて近況を伝え、利用者の状態や生活状況の共有を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診時やショッピングなどで外出する際は、住んでいた場所や景色が見える場所を通る等の配慮をしている。	利用開始時に利用者及び家族等から、馴染みの人や場所について聴取している。美容室の送迎時や受診時、買い物後などに馴染みの場所を訪れたり、地域の敬老会に参加して利用者の知人に会いに行ったり、家族と共に外出したりする等これまでの関係を継続できるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、利用者同士の関係性を見極め、職員が会話や関わりの橋渡し役となっている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、病院、スーパー等で会った時は、心配事や困ったことはないかを聞く。声かけをしている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者本人や家族から話を聞き取り、アセスメントに反映し、要望に応じた生活支援を実践している。	利用者が話し易い環境を作るようにし、家族が参加するケア会議では家族からも情報を得ている。職員は日々のかかわりの中で気付いたことを記録し、利用者の思いや意向の把握を本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族、ケアマネジャーから生活歴を聞き、入居後の生活に活用している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活歴や性格、既往歴などを把握し、その人に合った身体、心のケアを行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的に介護計画書は3ヶ月に1度見直しを行っている。また、月に1回の職員会議の場で、利用者の変化がないかを検討し、変化があった場合は随時見直しを行っている。	介護計画は必要に応じて見直しがされており、その時点に沿った個別具体的な計画となっている。職員の意見も積極的に取り入れ、自立支援に向けて利用者自身の役割も無理なく位置付けられている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の利用者の変化を個別記録に記入すると共に、申し送りを行い職員間で情報を共有している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の協力体制、地域や官公庁、その他必要な資源との関係作りを行い、支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや理美容室は馴染みの場所を利用してもらい、地域にある資源との関係を継続している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の意向を確認し、かかりつけ医の変更は行っていない。状態に変化がある場合は相談をし、かかりつけ医の指示を受けて対応している。	利用者が希望するかかりつけ医へ入居後も適切な医療が受けられるように受診支援を行っている。緊急時や状態の変化があった等は家族に連絡し、医療機関の説明を受けてもらっている。受診結果については、電話等で家族に状況を報告している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師や訪問看護師に相談出来る環境を作っている。連携を取りながら受診時に医師に相談する内容を検討している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には週1回は面会に行き、状態が安定した場合は退院が出来るように家族やソーシャルワーカー、医師と相談している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や入院、状態に変化があった時に、家族や病院と協議し対応を取っている。	看取りに関する対応方針があり、入居時に説明を行っている。重度化や終末期には、家族やかかりつけ医、全職員が随時話し合って方針を共有して支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の勉強会にて、緊急時の電話のやり取りや酸素の使用法、救命について行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との協働により、火災や自然災害時の訓練を職員、利用者、地域住民にて行い、地域の方々には日頃の挨拶や声かけにて良好な関係を構築している。	敷地内の法人施設と合同で通報・避難・消火訓練を行っており、事業所独自の避難訓練も行っている。地域の住民にも訓練への参加を呼び掛け、民生委員や地元消防団が参加している。非常用食料・飲料水・備品等についても事業所で準備している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格を把握し、レク活動やリハビリは強要せず、声かけをゆっくりと丁寧な口調で行うように心掛けている。	毎月の会議で入居者のプライバシーについて職員の意識向上を図り、職員も不必要な個人の情報を他の家族に漏らさないようにしたり、日常の言葉かけや対応に注意してケアを行っている。また、職員だけでなく自分の居室以外に、利用者が黙って入ってトラブルにならないように配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、レク活動やリハビリの際は、声かけを行い、利用者本人に物事を決めてもらうようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食べたい時間に食事を提供したり、入浴したい日や時間に入浴を行う等の対応を取っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や受診時の服装は本人に確認のもと決めてもらい、化粧や整髪にも職員が気配りをしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル準備、配膳、下膳、下ごしらえや洗い物を利用者、職員一緒に行っている。	法人の栄養士の献立をもとに食事を作っているが、利用者の要望に応じて献立を一部変更することが多い。ホットプレートや鍋もので出来上がりを利用者と一緒に楽しみながら、利用者ができる範囲で職員と一緒に準備などを行っている。職員は、利用者が食事を楽しむ雰囲気を作っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、献立に関しては併設施設の栄養士が管理している。水分、食事摂取量の記録を取り、栄養状態確認や脱水予防に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の義歯、口腔状態に合わせ、歯ブラシ、ガーゼ、スポンジ等を使用し、口腔内清潔保持を支援している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけを行い、排泄の失敗を防ぎ、トイレへの誘導により、トイレでの排泄継続を行っている。	トイレでの排泄を大切にしながら、排泄は一人ひとりの力を活かし、利用者の排泄習慣を把握して誘導等の支援を行っている。おむつ交換時は利用者の居室で行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立やおやつの工夫、適度な運動と水分補給にて便秘予防を行っている。また、排便間隔について、かかりつけ医との相談も速やかに行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	入浴の時間や曜日は定めていない。個浴にて対応していくことで、ゆっくりと自分の時間として入浴を楽しんでもらっている。	利用者が希望する時に、いつでもゆっくりと入浴を楽しめるよう支援を行っている。入浴を拒否される利用者には、職員が声かけ等を工夫し、無理なく入浴できるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は利用者個人に合わせて対応している。夜間不眠時は夜勤者とお茶を飲んだりして時間を過ごしてもらっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明を行い、飲んでもらっている。日々の体調確認の中で、副作用等の症状変化に注視している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の特技や力を活かして、業務の手伝いをしてもらったり、希望時の外出、散歩、レク活動を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者それぞれの希望にて近隣への外出や散歩を行っている。普段できない遠出は園外レクとして日程検討し、実施している。	天気や体調にもよるが、散歩はほぼ毎日行っている。また、買い物はスーパーに週1回程度、利用者の希望を聞いて行っている。その他、利用者の希望を考慮して紅葉狩りやバイキング等の外食やドライブを計画的に行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時や外出時に必要な分の金銭を持って行き、買い物が出来るようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話や手紙が出せるようにしている。手紙が届いた時は速やかに本人に手渡ししている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居室に植物を飾ったり、季節に合った飾り物を掲示している。日々の掃除を徹底し、環境の整備に気を付けている。	利用者は居心地の良い居間に集まって過ごされることが多い。利用者の状態に合わせて、ソファを高さのある物に入れ替えたり、壁面の掲示を季節感のあるものに毎月更新する等利用者が居心地良く過ごせる工夫をしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーにはテーブルや長椅子を用意し、利用者に自由に利用してもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者本人や家族の好きな様に設えをお願いしている。テレビ台や筆筒、布団等も持参してもらう事もあり、馴染みの物を使用してもらっている。	居室は清潔で明るく、身の回りの小物・テレビ・冷蔵庫・壁時計の他、家族の写真等が持ち込まれ、保育園児からのプレゼントの飾り物も置かれている。利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や必要最低限の手すりを設置し、現存能力を維持した生活を支援している。職員は見守りや付き添いを徹底している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない